

# 青少年育成センターだより

第56号 平成30年12月



うつくしや 年暮れきりし 夜の空

小林一茶

今年もあとわずかとなりました。皆さんにとって今年一年はどのような年だったでしょうか。「楽しいことや嬉しいことがいっぱいあった」と言う人いるでしょう。「苦しいこと、辛いことがあった」と言う人もいます。今年はまだ少しで暮れていきます。

来年はいっぱいいいことがありますように・・・。

## 小さな親切

「小さな親切」作文コンクールの入賞作品を紹介します。

ぼくは雪が積もるといつも雪かきをしています。雪かきは時間もかかるし体力を使うのでとても大変です。

ある日、お父さんに、「たかみさんの家の前の道も、雪かきしてくれんか」と言われたので、「家の雪かきのついでに、たかみさんの家の前の道も雪かきするけー」と言って、それから雪が積もった日は弟といっしょに雪かきをするようにしました。そもそも、たかみさんというのは、となりに住んでいる足が不自由な一人暮らしのおばあさんです。ぼくのおばあちゃんとも仲良しで、以前おばあちゃんにも、「雪かきをしてあげて」とも言われていたので、雪かきをするようにしました。

やり始めたころはいろんな思いがありました。とくに、「めんどくさいなあ、やりたくないなあ」という思いが強かったです。それでもぼくは、たかみさんが雪がつもった日も地域の人に会えるようにするために、かきつづけました。お父さんやお母さんも仕事に出ていてできなくて、ぼくしかできる人がいないから、積もった日は何回もかき続けました。その行動を何回もくりかえしているうちに、「めんどくさいなあ、やりたくないなあ」という気持ちはだんだんなくなっていきました。ぼくは、家の庭の雪かきを早く終わらせて、すぐにたかみさんの家の前の道にとりかかりました。なぜなら、家の庭よりたかみさんの前の道の方が、倍に長いからです。雪で段差ができて、たかみさんがこけないようにとか、雪かきした道に横に積もった雪が落ちないようにとか、いろいろ考えて雪かきの道を玄関までつなげて歩きやすいようにしています。たまに弟も手伝ってくれます。いつもは家の庭も合わせて1時間40分はかかっていたけど、弟といっしょならだいたい1時間ぐらいで終わります。

ある日たかみさんが、足が悪いのにわざわざ家に来て、「雪かきしてくれてありがとうな。きれいにかけてくれるけえ、うれしいわ」とほめてもらいました。そのことは、晩ご飯の話題にもなったりもします。このことでぼくは、人助けをしたら、人助けをした側もされた側もうれしくなれると、心に深く感じました。そしてこれからも、たかみさんだけでなく、ほかの人にも人助けをしていこうと思います。

いかがでしょうか、素晴らしい子どもですね。

困っている人や弱者に手を差し伸べることは、人として当然なことかもしれませんが、なかなかできることではありません。この子どもは、「人助けをしたら、人助けをした側もされた側もうれしくなれる」と言っています。まさに、ボランティアの醍醐味がここにあるのだと思います。この喜びを実感できた子どもは、きっと人をいじめたり、列車やバスの中で席を占領するような子どもにはならないのでしょうか。このような子どもが防府にも増えてくるとよいですね。